

6-3 九州地方とその周辺の最近の地震活動 (1990年5月～1990年10月)

Recent Seismic Activity in and around Kyushu District (May – October, 1990)

福岡管区気象台

Fukuoka District Meteorological Observatory, JMA

1990年5月から1990年10月までの震央分布を第1図に示す。また、第2, 3図にはそれぞれ1990年5月～7月, 1990年8月～10月の震央分布を示す。用いたデータの詳細は福岡管区気象台¹⁾を参照されたい。

この期間中、九州およびその周辺地域でおきた有感地震は99個(最大震度Ⅳ), M4.0以上の地震は13個(Mmax: 5.2)であった。

九州中部では中央構造線に沿って、有明海東部、国東半島、橘湾から島原半島での地震活動が目立っている。

(1) 奄美大島近海の有感地震活動

今年初めから続いていた名瀬の有感地震の回数は7月末までに27回を数えているが、5月以降に奄美大島近海を震源とする有感地震は、5月16日から7月1日にかけて12回(震度Ⅳ: 1回, 震度Ⅲ: 2回, 震度Ⅱ: 3回, 震度Ⅰ: 6回, 第1表参照)発生した。5月24日21時09分の地震では名瀬で震度Ⅳを観測し「ツナミナシ」の津波注意報が発表された。これらの有感地震のうち6個の震源が決定できたが、残りは名瀬の波形記録しかない。名瀬のS-P時間から約3秒と約4.5秒の地震があり、初動方向から判断すると2ヶ所あるいはそれ以上の場所で地震が起きていると考えられる。

7月1日11時35分の名瀬が震度Ⅰ(詳細不明)のあと名瀬付近を震源とする有感地震の発生は、8月に2回, 9月3回, 10月1回と少なくなった。

(2) 有明海東部の地震活動

6月27日から7月5日にかけて有明海東部を震源とする地震(最大M4.1)が発生した。このうち12個の震源が決定された。6月27日21時06分の地震(M2.9)により熊本で震度Ⅰ, 28日00時16分の地震(M4.1)により熊本, 雲仙岳, 牛深で震度Ⅱを観測した。この活動では雲仙岳で27日19時から28日08時にかけて42個の地震を観測した。

(3) 大分県北東部(国東半島の南西部)の活動

国東半島では、日出(ひじ)町で小被害がでた1989年11月16日の地震(M4.5)とその余震の活動範囲で再び7月21日から8月11日にかけて地震活動が活発化し震源が求まった地震は23個(Mmax: 3.2, 9日23時52分)になった。

(4) 橘湾～島原半島の地震活動

この期間、橘湾～島原半島では、雲仙岳で60回の有感地震(震度Ⅲ: 7回, 震度Ⅱ: 19回, 震度Ⅰ: 34回)を含む群発地震が発生、地震活動が高まった。

7月24日に始まった橘湾から島原半島にかけての地震活動は10月末現在も散発的に続いている。

雲仙岳における地震の日別発生回数（A74直視式電磁地震計 変位型2000倍 記録でP～Sが5秒以内の地震）を第4図に示す。地震回数の増加は、すでに6月頃から認められている。7月24日以降も回数の増減はあるものの、1月から5月に比べて活動的であることを示している。1月から10月までの総地震回数の合計は2774回（うち有感地震62個）になっている。

また、5月から10月の橘湾～島原半島の震央分布とその深さ分布を第5-1図、第5-2図に示す。橘湾から島原半島内部になるにしたがい震源の深さが浅くなっている。

(5) 大分・熊本県境付近の地震活動

10月7日にやや活発化し、同日23時34分にM4.1の地震（無感）が発生したが、顕著な活動には発展しなかった。

参 考 文 献

- 1) 福岡管区气象台：九州地方とその周辺の最近の地震活動（1986年2月～4月），地震予知連絡会会報，36（1986），322-326.

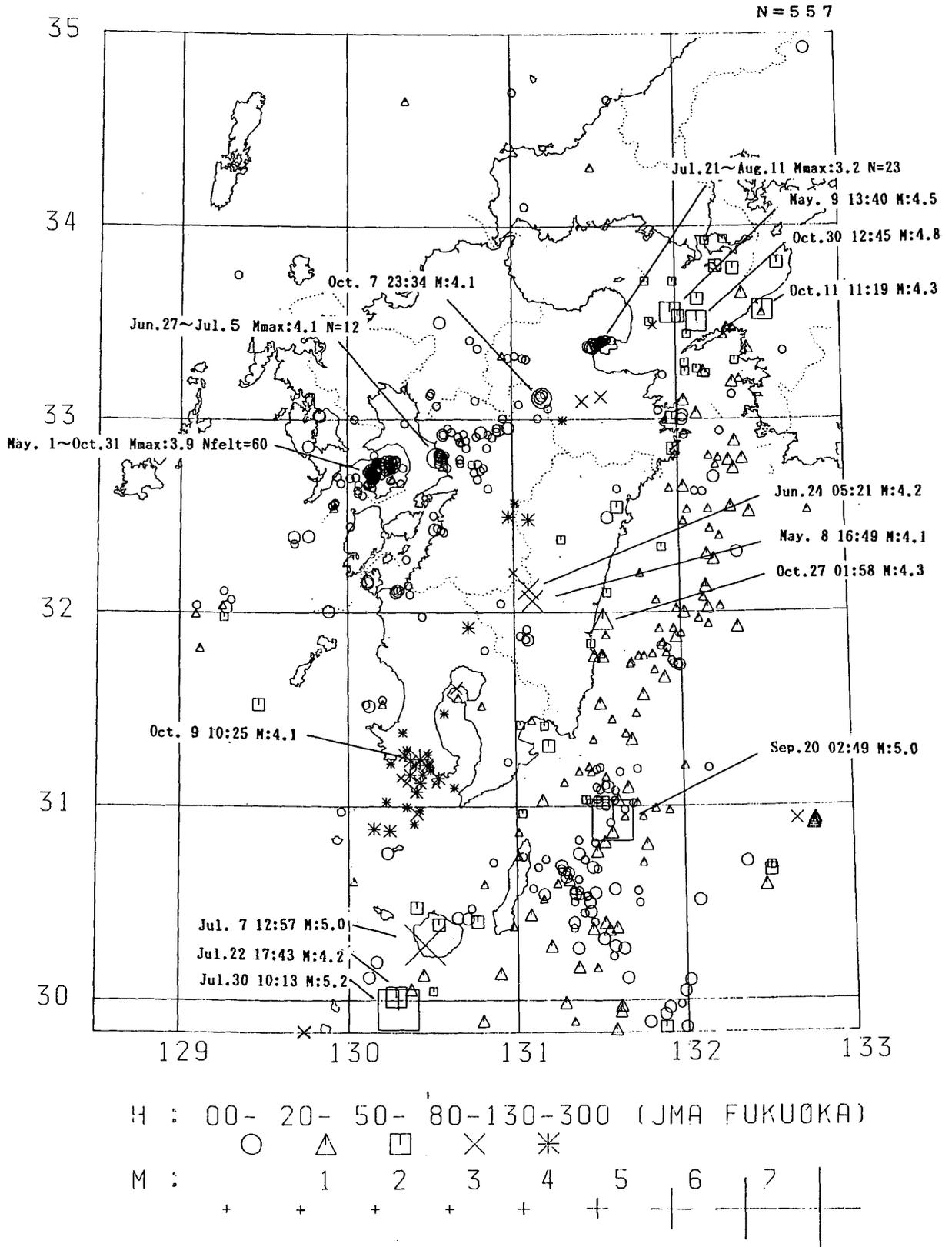
第1表 名瀬測候所の有感地震の表 (1990年5月~1990年10月)

Table 1 Table of earthquakes felt at Naze weather station and their intensities (May - October, 1990). Asterisk indicate the earthquake located.

*は震源が決まったものを表す

月	日	時	分	震度	M	S-P(秒)	初動(UD)
5	16	14	15	II	-	2.9	押し
	23	02	25*	III	3.6	3.1	押し
	24	21	09*	IV	5.2	4.6	引き
	26	09	39*	I	-	4.4	引き
	28	15	47	II	-	3.0	押し
	29	10	54	I	-	2.8	押し
	30	22	24	I	-	3.1	押し
6	01	16	25	I	-	4.3	引き
	03	07	12*	I	-	3.0	押し
	06	15	57*	III	3.6	4.4	引き
	08	05	00*	II	-	4.5	不明
7	01	11	35	I	-	3.0	押し
8	17	13	17*	III	3.7	4.2	不明
	27	09	58*	II	3.3	3.2	不明
9	09	12	37*	I	-	6.5	不明
	09	12	43*	I	-	6.2	不明
	21	22	17*	I	3.7	9.5	不明
10	04	06	05	I	-	4.2	不明

1990 5 1 --- 1990 10 31

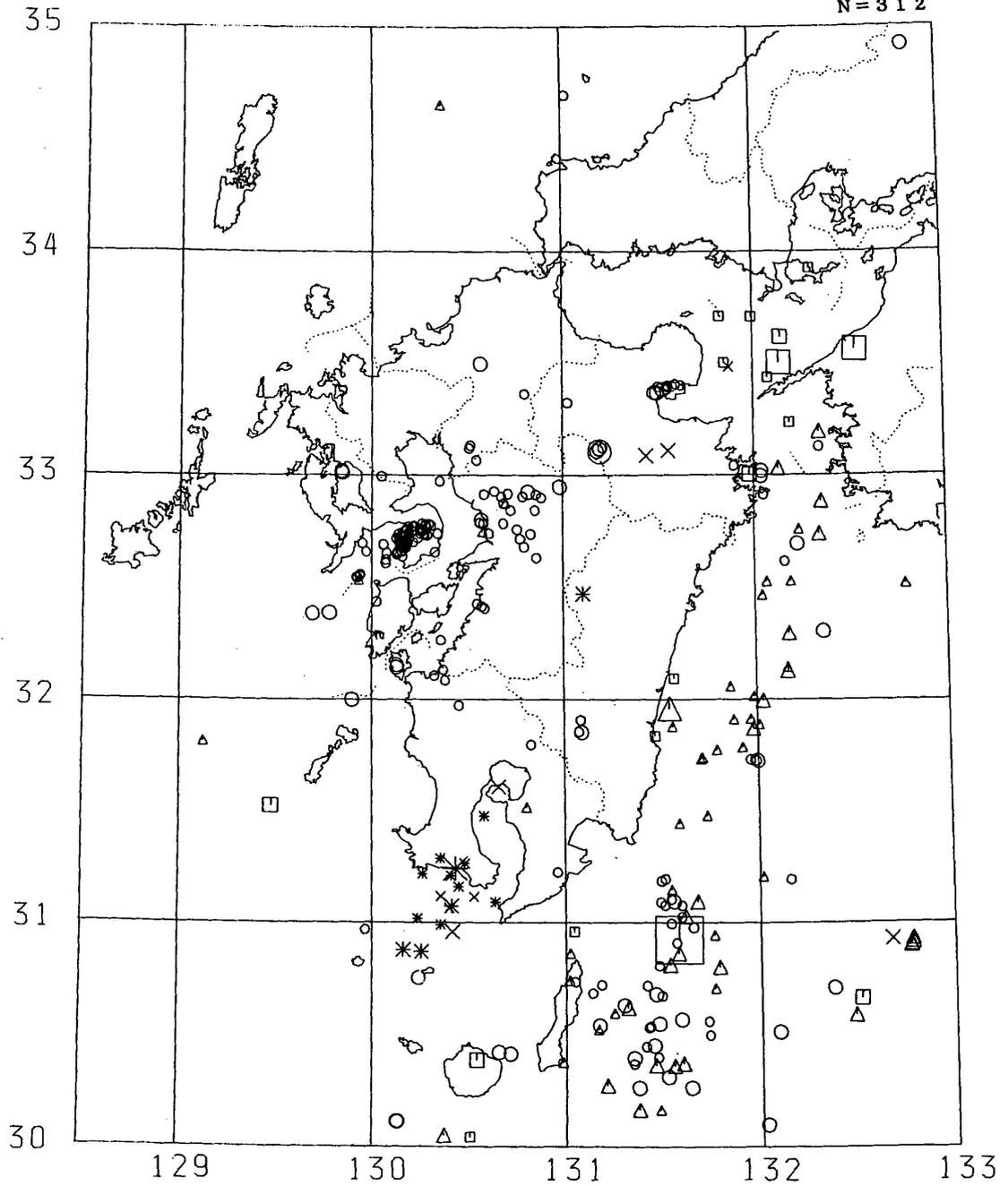


第1図 震央分布 (1990年5月~10月)

Fig. 1 Epicentral distribution (May - October, 1990).

1990 8 1 --- 1990 10 31

N=312



H : 00- 20- 50- 80-130-300 (JMA FUKUOKA)

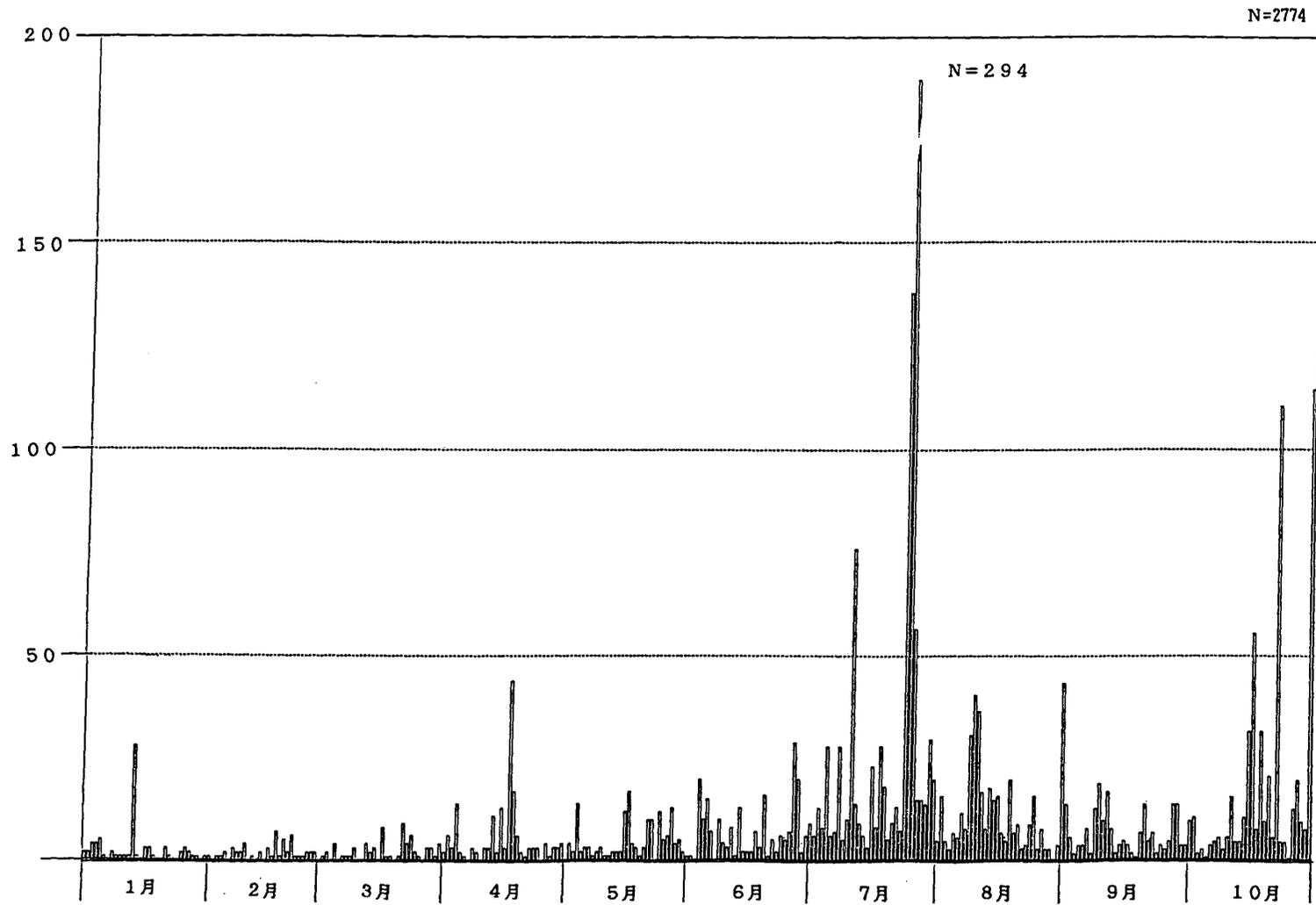
○ △ □ × *

M : 1 2 3 4 5 6 7

 + + + + + + +

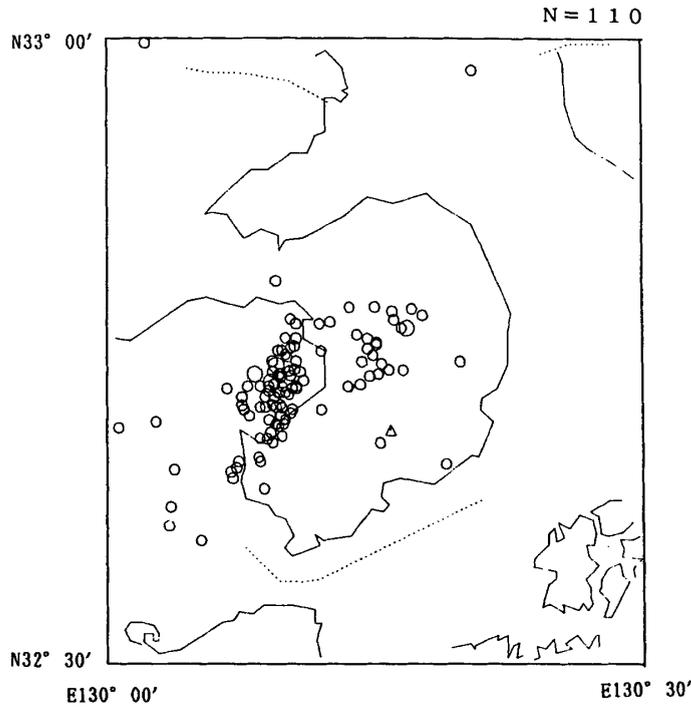
第3図 震央分布 (1990年8月~10月)

Fig. 3 Epicentral distribution (August - October, 1990).



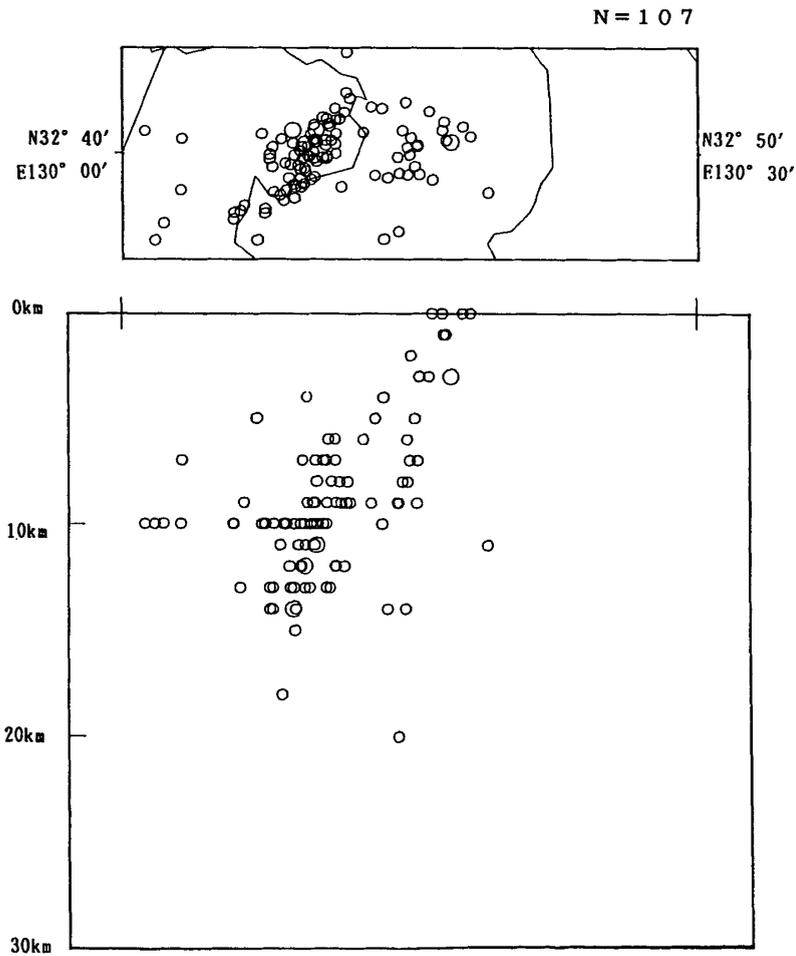
第4図 雲仙岳測候所における日別地震回数 1990年1月～10月
 A74型直視式電磁地震計（変位型2000倍）の記録でP～Sが5秒以内の地震の数

Fig. 4 Daily numbers of earthquakes observed at Unzendake weather station (January – October, 1990).
 A74 type magnification: 2000 S-P time \leq 5 sec.



第 5 - 1 図 島原半島付近の震央分布 (1990年 5 月~10 月)

Fig. 5.1 Epicentral distribution near Shimabara peninsula region (May - October, 1990).



第 5 - 2 図 島原半島の南西から北東面の震央の深さ分布

Fig. 5.2 Vertical section of epicentral distribution along the SW-NE direction near Shimabara.